

障害者の自立や社会参加を促進する汎用的な支援機器の開発

厚生労働省

フェーズ1公募機関

◎解決したい課題

➤ 障害者の自立や社会参加を支援する機器の開発を促進したい。

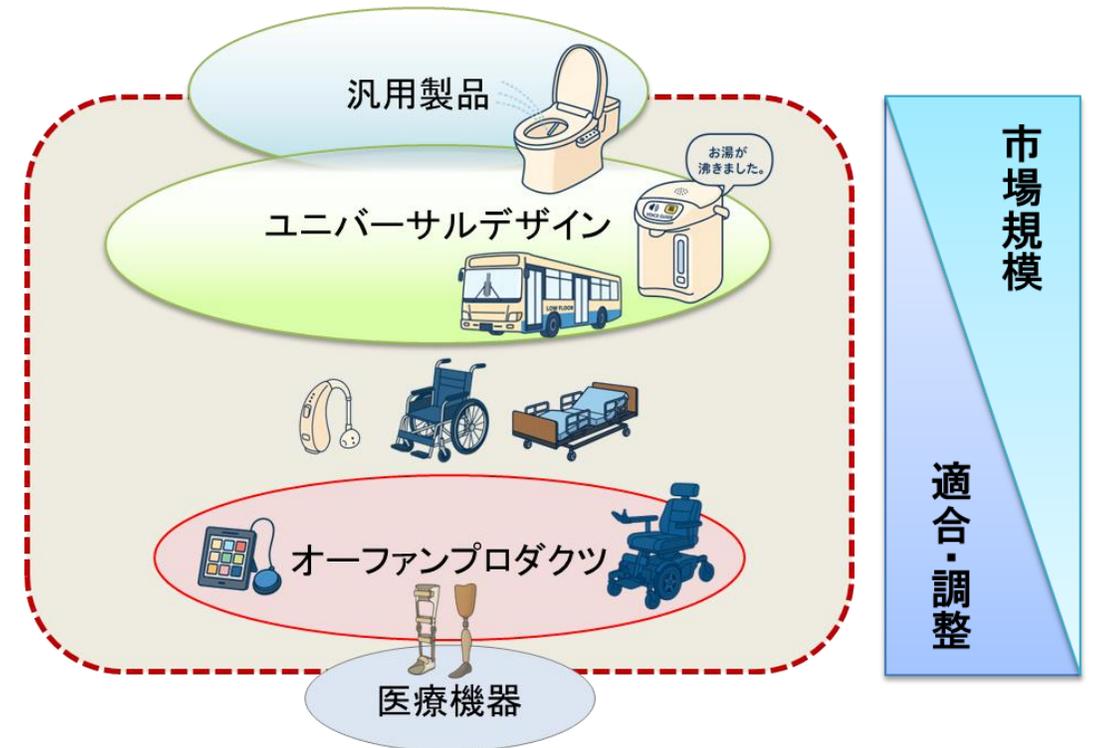
- これまでの障害者自立支援機器の開発は、
- ・ 製品化までに多くの開発過程と時間を要する
 - ・ 市場規模が小さく、事業化が難しい

➡ 障害者が、真に必要とする機器を入手できない
販売停止等により継続して使用できない

ターゲットユーザや環境設定、市場調査を踏まえて、実証を繰り返しながら機器の改良を行い、製品化及び事業化を目指す必要性

◎本開発の位置づけ

- 障害者のための支援機器開発は、障害者の自立及び社会参加を促進するうえで重要課題となっており、政府としても、障害者基本法に基づいた第5次障害者基本計画にて福祉用具その他アクセシビリティの向上に資する機器の普及促進・研究開発を推進している。
- 本開発は中でも、障害者の生き生きとした生活及び社会参加等の実現に必要な先進的要素技術の実用化を目指すもの。



研究開発内容・対象

◎求める技術の一例

- 障害者の関連する就労関連活動（業務支援、身支度、移動等）や就労環境の調整を支援する機器
- 障害児・者の知的及び認知機能を補助し、自立生活を支援する機器
- 障害児・者の日常生活関連活動（家事、買い物、外出時の移動・経路案内、金銭管理等）を支援する機器
- 障害児・者の余暇活動（遊び、趣味、スポーツ等）を支援する機器
- AIやサイバネテック・アバター等の先端技術を活用した障害児・者の生活を支援する機器

※医療機器は対象外 医療機器に該当するか判断できない場合は、事前に都道府県医療機器担当部署へ問い合わせること。



写真提供：テクノツール株式会社



ヨッティ
ソフトデバイス株式会社



ファンガード
矢崎化工株式会社

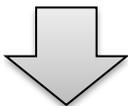


ヘビーロコ
今仙技術研究所



フェーズ2の支援内容

フェーズ1



・厚労省PMによるフェーズ1乗り入れ支援
事業者に対し一貫したアドバイス支援を提供。

フェーズ2

フェーズ2補助額: 1500万円/年

※補助率: 初年度10/10、2年目2/3

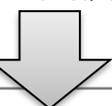
・PMによるハンズオン支援

支援機器開発のエキスパートとして活躍している厚生労働省PMが、事業者の個別の課題に向き合いながら開発機器の製品化及び事業化に向けた伴走支援を実施。

1事業者に対し、事業化、開発それぞれ2名のPMを配置。

・マッチングイベントの開催、出展

H.C.R.福祉機器最前線への優先出展やニーズ・シーズマッチング交流会の開催。



フェーズ2終了後

・支援機器の普及を支援

製品化後の販路拡大を目的とした、厚労省が実施する普及支援及び実証事業を紹介。

・他省庁関連事業の紹介

開発の進捗に応じて、適切な事業を紹介。

